

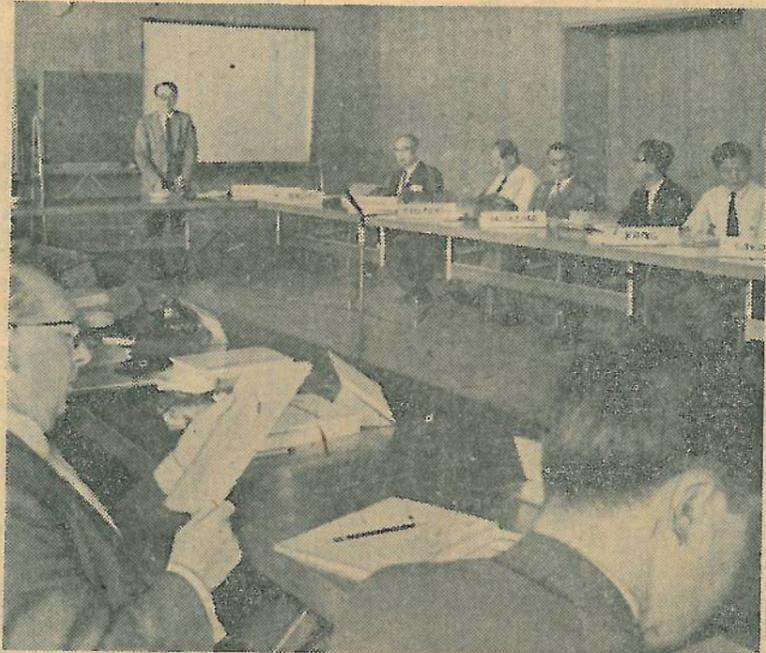
c073-001-032

話題を採る

素粒子国際会議

湯川秀樹博士の中間子論発表三十周年を記念した「中間子論三十周年素粒子国際会議」(日本学術会議・国際純粋・応用物理学連合)が、さる二十四日から三十日まで、京都府会館で開かれていた。

海外からはノール賞受賞者C・N・ヤン博士(C・N・Yang)と、表・早くも最終日までの多彩な成果が期待されているが、特にこの素粒子研究の現状を整理し、将来への方向づけを行なうひとつの

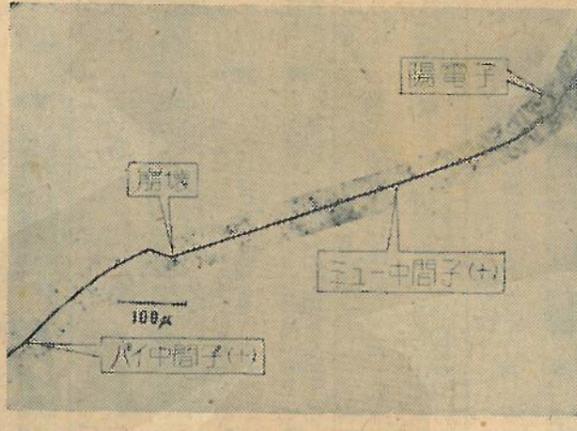


世界の頭脳を集めて開かれた素粒子国際会議

つかめぬ「素粒子の中身」

新しい理論を展開 将来への方向づけ

「節」となればよかったが、よって新しい素粒子が次々と発見され、物理学者は驚きと喜びを感じてきた。一九三四年にはベータ崩壊の研究からニュートリノの存在を推定された。一九三五年には陽子と中性子の存在が明らかになった。一九三七年には陽子と中性子の存在が明らかになった。一九三七年には陽子と中性子の存在が明らかになった。



初めて国産で成功した「パイ中間子」の飛行跡—東大原核研で



湯川秀樹氏



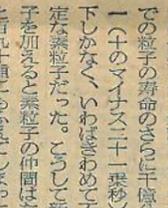
C・N・ヤン氏



I・E・タム氏



坂田昌一氏



武谷三男氏

湯川博士の中間子論は、中間子と新しい素粒子の存在を予言したもので、核力に重要な役割を果たしている。この予言は、一九三五年に陽子と中性子の存在が明らかになったことで、核力の理解に大きな進展をもたらした。

湯川博士は、一九三七年、宇宙線の中で発見された、湯川博士の予言が立証された。

一九五〇年代は、陽子、中性子の構造が明らかになった。それによって、核子の内部構造が明らかになった。

素粒子の分類表

重粒子	中間子	軽粒子	光子
陽子	パイ	電子	光子
中性子	パイ	陽子	
シグマ	パイ	ニュートリノ	
グザイ	パイ	ニュートリノ	
	K		

このほか反粒子や粒子の励起状態とみられるものもある。

昭和四十年九月二十七日

